

学会記事

第31回 日本自然災害学会学術講演会報告

1. 期日：2012年9月18日（火）～19日（水）
2. 場所：弘前大学
3. 日程：学術講演会 9月18日（火）9：00～17：45
9月19日（水）9：00～16：50
 総 会 9月19日（金）10：30～12：00
4. 参加者数：138名
5. プログラム：各会場で行われた講演会のプログラムは、下記のとおりである。

- I-1-1 東日本大震災を踏まえた漁業地域の防災対策緊急点検結果について
－東海・東南海地震津波の対象沿岸漁村地域における避難路等配置計画（案）の事例報告－
近藤 良・福原和颯（中電技術コンサルタント株式会社）・中村 隆・加藤広之（財団法人 漁
港漁場漁村技術研究所）・田中郁也・大黒俊一（水産庁漁港漁場整備部）
- I-1-2 首都圏で生じた帰宅困難者の意識・行動の特性分析 －都心部と郊外部の比較を通じて－
小崎伸悟（東京電機大学理工学部理工学科）・藤生 慎（東京大学大学院学際情報学府）・高
田和幸（東京電機大学理工学部）
- I-1-3 自動車を用いた津波避難状況の再現手法に関する研究
－東北地方太平洋沖地震で被災した宮城県気仙沼市を対象として－
小野村広平（東京電気大学大学院理工学研究科）・藤生 慎（東京大学大学院学際情報学府）・
高田和幸（東京電機大学理工学部准教授）
- I-1-4 新聞記事を基とした避難行動調査 －東日本大震災を例として－
五味千絵子・葛葉泰久（三重大学大学院生物資源学研究所）
- I-1-5 防災実務者を対象とした人材育成講座の構築 －ふじのくに防災フェロー養成講座第一期を終えて－
横幕早季・牛山素行・大森康智・佐津川貴子・増田俊明（静岡大学防災総合センター）
- I-2-1 パルス性地震動に対する木造住宅の地震対策に関する研究
木村友香・杉野未奈・林 康裕（京都大学大学院工学研究科建築学専攻）
- I-2-2 AR技術を用いた家具転倒危険度可視化スマートフォンアプリの開発
横枕直人・小山真紀・清野純史（京都大学大学院工学研究科）・岡田成幸（北海道大学大学院
工学研究院）
- I-2-3 大規模地震災害向け遠隔建物被害認定システムの実装に向けた検討
－建物被害認定経験者に対する実証実験を通じて－
藤生 慎（東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻博士課程）大原美保・目黒公郎（東
京大学大学院情報学環 / 生産技術研究所准教授）
- I-2-4 地域住民の防災意識の定量化について
－重要伝統的建造物群保存地区における防災意識の地域特性（その3）－

- 崔 青林 (立命館大学 歴史都市防災研究センター)・朴 ジョンヨン (立命館大学 理工学専攻博士後期課程)・金 致淑・谷口仁士 (立命館大学 歴史都市防災研究センター)
- I-2-5 歴史的煉瓦造建築物の耐震補強が煉瓦壁の面外方向振動特性に与える影響
多幾山法子・南部恭広・林 康裕 (京都大学大学院工学研究科建築学専攻)
- I-2-6 2004年7月豪雨災害時に自主避難を実施した地区における住民意識
-福島県西会津町弥平二郎地区を対象として-
井良沢道也 (岩手大学農学部)・玉熊はるな (青森県庁)・柴田貴司 (北名古屋)
- I-3-1 三次元数値解析による釜石湾での津波挙動解析
三輪真揮 (国土交通省)・西田知洋 (京都大学大学院)・米山 望 (京都大学防災研究所)
- I-3-2 南海トラフ巨大地震の断層パラメータの違いが名古屋地域の地震動に与える影響
宮腰淳一 (名古屋大学 減災連携研究センター)・渡辺莉奈 (名古屋大学大学院 環境学研究科)・護 雅史・福和伸夫 (名古屋大学 減災連携研究センター)
- I-3-3 大変形流体解析手法を用いたカナダの雪崩解析
小田憲一 (日本大学理工学部)・Richard G. Wan・Bruce Jamieson (University of Calgary)
森口周二・沢田和秀 (岐阜大学)
- I-3-4 浸透の影響を考慮した砂質堤防越流侵食過程のモデル化に関する研究
水谷英朗・中川 一 (京都大学防災研究所)・與田敏昭 (株式会社ニュージェック)・川池健司・張 浩 (京都大学防災研究所)
- I-3-5 雪氷災害による道路交通の損失と雪氷災害予測システムによる減災の便益算出の試み
上石 勲・佐藤 威 ((独)防災科研・雪氷防災研究センター)
- I-4・II-4・III-4 東日本大震災特別セッション
- I-5-1 “無常”をめぐる社会的なりアリティ -3.11に関する災害報道の内容分析と基礎的な考察-
近藤誠司 (京都大学大学院情報学研究科)・矢守克也 (京都大学防災研究所)
- I-5-2 学校を中心とした災害に強いまちづくり -釜石市唐丹地区の事例より-
松浦象平・ショウ ラジブ (京都大学大学院地球環境学堂国際環境防災マネジメント論分野)
- I-5-3 雲仙における砂防指定地利活用の現状とこれから
高橋和雄 (長崎大学大学院)・杉本伸一 (第5回ジオパーク国際ユネスコ会議事務局)
- I-5-4 三重県簡易型 GIS (M-GIS) を活用した防災対策活動の実施
松浦利昭 (シーキューブ株式会社 (美し国おこし 三重さきもり倶楽部))・畑中重光 (三重大学大学院工学研究科教授)・葛葉泰久 (三重大学大学院生物資源学研究科教授)
- I-5-5 教諭を対象とした学校防災管理研修の取り組み
中野 晋・粕淵義郎 (徳島大学環境防災研究センター)
- I-6-1 生きる力とは何か
-3.11震災経験の認知科学的分析 -被災者・復旧復興当事者の困難克服事例の定性的分析-
杉浦元亮・野内 類 (東北大学加齢医学研究所) 佐藤翔輔・邑本俊亮・今村文彦・阿部恒之 (東北大学災害科学国際研究所)・本多明生 (東北福祉大学)・岩崎雅宏 (科学技術振興機構)
- I-6-2 地域防災計画から見る災害時要援護者への支援方法
永家忠司 (函館工業高等専門学校)・北川慶子 (佐賀大学文化教育学部)・伊津野美希子 (佐賀大学大学院生)
- I-6-3 2012年山形県で発生した雪による農林災害
脇水健次・西山浩司 (九州大学大学院農学研究院)

- I-6-4 3.11以降は経済より人命、公助より自助、諦めへ
伯野元彦（東京大学名誉教授）
- I-6-5 密集市街地における空き家の耐震性向上に関する要因分析
山岸宣智・水野智雄（金沢大学大学院自然科学研究科）・宮島昌克（金沢大学理工学域）
- I-7-1 VALIDATION OF FORCE ON SEAWALL DUE TO OVERTOPPING TSUNAMI BY 3D
NUMERICAL SIMULATION
William Pringle (Kyoto University, Graduate School of Engineering)・Nozomu Yoneyama
(Kyoto University, Disaster Prevention Research Institute)
- I-7-2 INTEGRATED APPROACH OF SAFE WATER ADAPTABILITY FOR SALINITY, ARSENIC
AND DROUGHT RISKS IN SOUTHWESTERN BANGLADESH
M.A. Abedin・Rajib Shaw (Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto
University)
- I-7-3 ECOSYSTEM RESILIENCE AND COMMUNITY VALUES: IMPLICATIONS TO ECOSYSTEM-
BASED ADAPTATION
Noralene Uy・Rajib Shaw (Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto
University)
- I-7-4 Disaster Risk Reducation Education in Da Nang, Central Vietnam
Thi Thi My Tong・Rajib Shaw (Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto
University)
- I-7-5 東日本大震災津波後の河口地形変化の問題点－福島県鮫川の事例－
Mohammad Bagus Adityawan・田中 仁（東北大学大学院工学研究科土木工学専攻）・長林久
夫（日本大学工学部土木工学科）
- I-7-6 A STUDY ON THE IMPROVEMENT OF CAPTURE CAPACITY BY THE ARRANGEMENT
OF SABO DAM
Kim Namgyun (Graduate Student, Kyoto University)・Hajime Nakagawa (Professor, Kyoto
University)・Kenji Kawaike (Associate Professor, Kyoto University)・Hao ZHANG (Assistant
Professor, Kyoto University)
- II-1-1 中山間地域における日タイ間の災害情報伝達システムの比較
近藤伸也・川崎昭如・大原美保（東京大学生産技術研究所）・Adisorn Sunthararuk (NPO 法
人 ルーイ環境保全・維持財団)・Manop Kaewmoracharoen (チェンマイ大学土木工学科)
- II-1-2 和歌山県における南海トラフ巨大地震津波による浸水危険度予測の不確実性に関する研究
溝端祐哉（関西大学大学院理工学研究科）・安田誠宏（京都大学防災研究所）・奥村与志弘
（京都大学大学院工学研究科）・間瀬 肇・森 信人（京都大学防災研究所）・島田広昭（関西
大学環境都市工学部）
- II-1-3 津波痕跡データに基づく痕跡高と地震マグニチュード・再現期間の関係
福谷 陽・Anawat Suppasri・安倍 祥・今村文彦（東北大学災害科学国際研究所）
- II-1-4 浮体式津波避難シェルターの運動予測モデル
松本弘史（大阪市立大学大学院工学研究科）・中東大輔（キタイ設計株式会社）・重松孝昌
（大阪市立大学大学院工学研究科）
- II-1-5 東日本大震災後のゴールデンタイムのテレビ報道の分析
沼田宗純（東京大学生産技術研究所）・目黒公郎（東京大学大学院情報学環 / 生産技術研究

所)

- II-2-1 自然災害発生後の応急対策と復旧対策についての中日比較
朱 培紅・西本晴男（筑波大学大学院生命環境科学研究科）
- II-2-2 帰宅困難者支援アプリケーションの開発と評価
椎名昌士（東京電機大学理工学部）・藤生 慎（東京大学大学院学際情報学府）・高田和幸（東京電機大学理工学部）
- II-2-3 日本自然災害学会災害情報委員会によるツイッター活用の試み
横幕早季・牛山素行（静岡大学防災総合センター）
- II-2-4 網式消波材の耐波安定性と施工性に関する実験
平石哲也（京都大学防災研究所）・土橋和敬・黒田美里（前田工織（株））
- II-2-5 復興における住民参加の課題に関する実践的研究：中越地震の被災地（小千谷市塩谷集落）における復興活動から
関 嘉寛（関西学院大学社会学部）・渥美公秀（大阪大学大学院人間科学研究科）
- II-2-6 被災地のリレーに関する実践的研究：中越地震の被災地（小千谷市塩谷集落）から東日本大震災へ
渥美公秀（大阪大学大学院人間科学研究科）・関 嘉寛（関西学院大学社会学部）
- II-3-1 平成23年9月台風15号による郡山市の市街地における洪水被害について
井上直行・長林久夫（日本大学工学部）
- II-3-2 橋桁に作用する津波波力の数値解析
直田 梓（京都大学工学研究科）・米山 望（京都大学防災研究所）
- II-3-3 東日本大震災の被災者の復興過程について -復興曲線を用いたインタビュー（1）-
宮本 匠（京都大学防災研究所）
- II-3-4 東日本大震災の発生1年間に見るウェブ報道の内容分析
-地域性と「復興」という文脈に着目して-
佐藤翔輔・今村文彦・柴山明寛（東北大学災害科学国際研究所）・伊藤ほなみ（科学技術振興機構）
- II-3-5 想定外の科学
葛葉泰久・五味千絵子（三重大学大学院生物資源学研究科）
- II-3-6 津波に対する防潮林保全と消波工の一体型水理実験
土屋十囿（中央大学理工学研究所（前橋工科大学 PE））・吉江 悟（長野県塩尻市役所農林課）
- II-5-1 地域と学校の連携による実践的津波避難訓練
照本清峰（和歌山大学防災研究教育センター）
- II-5-2 東日本大震災をどう見る -中国・イラン若手研究者・技術者へのアンケート結果-
高田至郎（（株）ライフライン防災技術研究所）・武田康夫（（株）潮技術コンサルタント）
- II-5-3 東日本大震災における東北大学工学部の室内被害
大越浩司（東北大学工学研究科都市・建築学専攻）・大野 晋（東北大学災害科学国際研究所）・本間 誠（東北大学工学部・工学研究科健康安全管理室）
- II-5-4 東日本大震災における医療施設のライフライン被害と医療機能低下に関するアンケート調査
館裕次郎（金沢大学大学院自然科学研究科）・宮島昌克（金沢大学理工学研究域）
- II-5-5 南海地震を対象とした徳島大学事業継続に向けた取り組み
粕淵義郎・中野 晋（徳島大学 環境防災研究センター）

- II-6-2 宮城県沿岸15市町における東日本大震災の現地情報収集活動の試み
 - 「みちのく・いまをつたえ隊」の活動 -
 岩崎雅宏 (独立行政法人 科学技術振興機構)・人見俊介 (株式会社サーベイリサーチセンター)・佐藤翔輔・柴山明寛・今村文彦 (東北大学災害科学国際研究所)
- II-6-3 奄美地方の豪雨に伴う土砂崩れ災害と植生の関係
 小林悟志 (国立極地研究所)・北本朝展 (国立情報学研究所)
- II-6-4 荒砥沢地すべり地域における高密度アレー地震観測
 松波孝治・森井 互・齊藤隆志・福岡 浩 (京都大学防災研究所)・岡本 茂・竹本哲也・長尾秀孝・井川 猛 ((株) 阪神コンサルタンツ)
- II-6-5 平成23年東北地方太平洋沖地震を対象とした岩手県一関市の超高密度アンケート震度調査
 山本英和・齊藤 剛・齊藤良平・宇部陽子・大河原正文 (岩手大学工学部)・一戸欣也 (一関市役所)
- II-6-6 岩手県山田町における東日本大震災による人的被害の特徴
 杉村晃一 (静岡市役所上下水道局)・牛山素行・横幕早季 (静岡大学防災総合センター)・本間基寛 (日本気象協会事業本部)
- II-7-1 東海・東南海・南海地震想定見直し後の大阪湾圏域自治体における津波防災対策の状況
 宇野宏司 (神戸市立工業高等専門学校都市工学科)
- II-7-2 東日本大震災における政府災害現地対策本部の役割とその評価
 紅谷昇平・河田恵昭 (人と防災未来センター)
- II-7-3 小浜西組地区における地域住民の防災意識調査について
 - 重要伝統的建造物群保存地区における防災意識の地域特性 (その1) -
 朴 ジョンヨン (立命館大学理工学専攻博士後期課程)・崔 青林・金 致淑・谷口仁士 (立命館大学 歴史都市防災研究センター)
- II-7-4 韓国安東河回村の地域住民を対象とした防災意識調査について
 - 重要伝統的建造物群保存地区における防災意識の地域特性 (その2) -
 金 致淑 (立命館大学 歴史都市防災研究センター)・朴 ジョンヨン (立命館大学 理工学専攻博士後期課程)・崔 青林・谷口仁士 (立命館大学 歴史都市防災研究センター)
- III-1-1 現地試験に基づく海岸黒松の被害条件
 松富英夫・星 孟志 (秋田大学)・原田賢治 (静岡大学)・決得元基 (秋田大学)
- III-1-2 「だいち」合成開口レーダーで見た京都盆地と大阪平野の地盤変動
 橋本 学 (京都大学防災研究所)
- III-1-3 東日本大震災に関する記録・証言などの収集活動の現状把握
 永村美奈 (株式会社ワンビシアーカイブズ)・佐藤翔輔・柴山明寛・今村文彦 (東北大学災害科学国際研究所)・岩崎雅宏 (独立行政法人科学技術振興機構)
- III-1-4 続 固有振動おもちゃ「ゆらゆら」で表現する共振, 免震, 耐震, 制振の物理
 納口恭明・下川信也 (独立行政法人防災科学技術研究所)
- III-1-5 高齢者居住形態による災害脆弱性指標の構成とその検討
 - 大阪市北区の全戸を対象とした分析から -
 安部美和 (関西大学社会的信頼システム創生センター)・与謝野有紀 (関西大学社会学部, 社会的信頼システム創生センター)
- III-2-1 GIS手法による荒砥沢地すべり周辺での強振動に対する不安定土塊の特定

- 齊藤隆志・松波孝治（京都大学防災研究所）
- Ⅲ-2-2 津波痕跡と史料から解釈した1611年慶長地震
今井健太郎・菅原大助・今村文彦（東北大学災害科学国際研究所）
- Ⅲ-2-3 2012年梅雨豪雨で発生した鹿児島県の災害
井村隆介・宮之原優聖（鹿児島大学大学院理工学研究科）
- Ⅲ-2-4 非定常水文頻度分析に用いる移動部分標本数の評価
草刈智一（元信州大学大学院）・寒川典昭・中屋真司（信州大学工学部）・浜口俊雄（京都大学防災研究所）・山崎基弘（前信州大学工学部）
- Ⅲ-2-5 地震・大雨の雪崩発生への影響と積雪振動実験による地震・積雪複合災害の被害想定手法の検討
上石 勲（（独）防災科研・雪氷防災研究センター）・町田 敬（町田建設（株））
- Ⅲ-3-1 AN EXPERIMENTAL STUDY ON IMPACT FORCE FOR VERIFICATION OF 3 D DEBRIS FLOW MODEL
Yeonjoong KIM (Graduate Student, Kyoto University)・Hajime Nakagawa (Professor, Kyoto University)・Kenji Kawaike (Associate Professor, Kyoto University)・Hao ZHANG (Assistant Professor, Kyoto University)
- Ⅲ-3-2 ON THE STUDY OF FLOW PATTERN OF STREAM STAGNATION ZONES FORMED BY DIFFERENT SHAPES OF SPUR DYKES
Amir Reza Mansoori (Graduate Student, Kyoto University)・Hajime Nakagawa (Professor, Kyoto University)・Kenji Kawaike (Associate Professor, Kyoto University)・Hao ZHANG (Assistant Professor, Kyoto University)
- Ⅲ-3-3 Experimental study on development of integrated urban inundation model
Seungsoo Lee (Graduate Student, Kyoto University)・Hajime Nakagawa (Professor, Kyoto University)・Kenji Kawaike (Associate Professor, Kyoto University)・Hao ZHANG (Assistant Professor, Kyoto University)
- Ⅲ-3-4 津波河川遡上に対する河口地形の影響に関する研究
盧 敏・Mohammad Bagus Adityawan・田中 仁（東北大学大学院工学研究科土木工学専攻）
- Ⅲ-3-5 Seismic Retrofitting of Unreinforced Masonry Structures using High Performance and Low Cost Composite Material.
Saleem Muhammad Umair (Phd Candidate, Civil Engineering Department, TheUniversity of Tokyo)・Muneyoshi Numada・Kimiyo Meguro (International Center for Urban Safety Engineering, Institute of Industrial Science, The University of Tokyo)
- Ⅲ-5-1 ノート PC 内蔵加速度センサーと赤外線センサーによる室内被害把握に関する研究
岡元 徹（日本総合システム株式会社）・柴山明寛・大野 晋（東北大学災害科学国際研究所）
- Ⅲ-5-2 中山間地域における災害時の孤立に関する研究 -みなべ町清川地区を事例として-
趙 在竜（和歌山大学院システム工学研究科生）・照本清峰（和歌山大学防災研究教育センター）・平田隆行（和歌山大学システム工学部）
- Ⅲ-5-3 東北地方太平洋沖地震における配水システムの流量増加・水圧低下に関する検討
坪川俊行（金沢大学大学院）・宮島昌克（金沢大学理工学研究域）・石田明久（金沢大学理工学域）
- Ⅲ-5-4 東日本大震災における漁村の人的被害に関する一考察 -宮城県南三陸町を事例として-

- 大塚浩二（財）漁港漁場漁村技術研究所)
- Ⅲ-5-5 山梨県における詳細な気象レーダー情報を用いた土砂災害危険度推定の試み
渡邊彩花・相馬一義・末次忠司（山梨大学大学院医学工学総合教育部）・砂田憲吾・佐野哲也・柿澤一弘（山梨大学大学院医学工学総合研究部）
- Ⅲ-6-1 東日本大震災被災地における木質災害廃棄物と地域木材の活用による地域再生
－岩手県大槌町における取り組み1－
渡辺千明・佐々木貴信・山内秀文（秋田県立大学木材高度加工研究所）・後藤文彦（秋田大学大学院工学資源学研究所）
- Ⅲ-6-2 「緊急地震速報」に対する評価・意識の比較
－「警報の緊急地震速報」の経験の有無との関係から考える
中森広道（日本大学文理学部社会学科）
- Ⅲ-6-3 海水浴場利用者の津波防災意識の及ぼす東日本大震災の影響
渡邊義徳・橋本 樹（関西大学大学院）・馬場康之（京都大学防災研究所白浜海象観測所）・武藤裕則（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部）・石垣泰輔・島田広昭（関西大学環境都市工学部）
- Ⅲ-6-4 流水より人体が受ける流体力に関する数値解析
藤木 峻（京都大学大学院工学研究科）・米山 望（京都大学防災研究所）
- Ⅲ-6-5 水災害補償制度と流域管理の連携に関する基礎的検討
市川 温（山梨大学国際流域環境研究センター）・鈴木智暁（宇都宮市役所）
- Ⅲ-6-6 災害時におけるデジタルサイネージの活用
－東日本大震災におけるデジタルサイネージの運用実態と今後－
関谷直也（東洋大学社会学部）
- Ⅲ-7-1 陸前高田市・気仙沼市における東日本大震災による人的被害の特徴
牛山素行（静岡大学防災総合センター）・本間基寛（日本気象協会事業本部）・横幕早季（静岡大学防災総合センター）・杉村晃一（静岡市役所上下水道局）
- Ⅲ-7-2 土砂災害履歴データベースの作成と利用 －熊本県を対象として－
北園芳人（熊本大学大学院自然科学研究科）・町田倫子（熊本市役所）
- Ⅲ-7-3 東日本大震災アーカイブの収集から利活用までのモデル構築に関する研究
柴山明寛・佐藤翔輔・今村文彦（東北大学災害科学国際研究所）
- Ⅲ-7-4 2011年東北地方太平洋沖地震で発生した斜面変動の類型化
檜垣大助（弘前大学）・佐藤 剛（帝京平成大学）・千葉則行（東北工業大学）・井良沢道也（岩手大学）・岩井明彦（群馬大学）・武士俊也（独）土木研究所）
- Ⅲ-7-5 自動車交通量にみる高速道路機能の被害と復旧 －東日本大震災と阪神・淡路大震災の事例比較－
能島暢呂・加藤宏紀（岐阜大学工学部）
- Ⅲ-7-6 青森県三沢市において津波被害を受けた地点の地理的要因と海岸林の特性について
片岡俊一（弘前大学）

第30回 日本自然災害学会学術講演会報告

1. 期日：2011年11月17日（木）～19日（土）
2. 場所：東京大学生産技術研究所
3. 日程：学術講演会 11月17日（木）9：00～17：20
11月18日（金）9：00～10：25
11月19日（土）9：00～12：05
 総 会 11月18日（金）10：30～12：00
4. 参加者数：149名
5. プログラム：各会場で行われた講演会のプログラムは、下記のとおりである。

- I-1-1 建設業の災害予防・応急対策への活用に関する調査
高橋和雄（長崎大学大学院）・木下 和則（福井県警察）・中村 聖三（長崎大学大学院）
- I-1-2 洪水氾濫時の車の限界掃流条件に関する模型実験
高垣裕彦・石垣泰輔（関西大学環境都市工学部）・戸田圭一（京都大学防災研究所）・尾崎 平（関西大学環境都市工学部）・馬場康之（京都大学防災研究所）
- I-1-3 2011年東北地方太平洋沖地震後の緊急地震速報に対する企業の対応行動についての調査報告
山本了平（東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻）・大原美保（東京大学大学院情報学環 / 生産技術研究所）・目黒公郎（東京大学大学院情報学環 / 生産技術研究所）
- I-1-4 メガターミナルオペレーターの参入が港湾の防災投資に与える影響
玉置哲也（京都大学情報学研究科）・多々納裕一（京都大学防災研究所）
- I-1-5 被災地外の人材を有効活用する大震災時向け遠隔建物被害認定システムの開発
藤生 慎（東京大学大学院情報学府学際情報学専攻博士課程）・大原美保（東京大学大学院情報学環 / 生産技術研究所）・目黒公郎（東京大学大学院情報学環 / 生産技術研究所）
- I-2-1 土砂災害警戒情報の警戒避難への活用促進に関する調査
清水 誠（長崎大学大学院）・寺崎宏章（西部通信工業）・高橋和雄・中村聖三（長崎大学大学院）
- I-2-2 水害時の効率的避難を実現するための3D水害リスク可視化システムの検討
牧之段浩平（東京大学大学院）・大原美保・目黒公郎（東京大学大学院情報学環 / 生産技術研究所）
- I-2-3 東日本大震災における沿岸鉄道・車両への影響評価－東松島市野蒜地区－
島村宗一郎・今村文彦（東北大学）・阿部郁男（富士常葉大学）
- I-2-4 地域特性を考慮した緊急地震速報の効果的活用戦略に関する研究
大原美保（東京大学大学院情報学環 / 生産技術研究所）・吉成英俊（元東京大学大学院工学系研究科修士課程）・目黒公郎（東京大学大学院情報学環 / 生産技術研究所）
- I-2-5 災害対応業務における衛星地形図の利用に関する考察
本多弘明・金子正洋（国土技術政策総合研究所）
- I-3-1 応急仮設住宅における自治会運営の現状と課題－陸前高田市における半年間の参与観察を通じて－
柄谷友香（名城大学大学院 都市情報学研究科）
- I-3-2 水害多発市町村における水防災体制の推移と考察－H7とH23調査結果の比較－
望月 瞳・末次忠司（山梨大学）・須見徹太郎（国土交通省）・稲垣意地子（山梨大学）
- I-3-3 津波発生時におけるフラップゲート式防波堤の挙動に関する三次元数値解析

- 三輪真揮 (京都大学大学院)・中島健輔 (清水建設)・米山 望 (京都大学防災研究所)
- I-3-4 地形と地質条件からみた地上雨量観測所の配置特性に関する基礎的検討
林 義晃 (福岡大学工学部)・手計太一 (富山県立大学工学部)・山崎惟義 (福岡大学工学部)
- I-3-5 正統的周辺参加理論に基づく防災学習の実践 – 満点計画を通して –
岩堀卓弥 (京都大学大学院情報学研究科)・城下英行 (関西大学社会安全学部)・矢守克也 (京都大学防災研究所)
- I-4-1 1-2-3 of Disaster Education: Linking School DRR Education to Households and Communities
Glenn Fernandez・Yukiko Takeuchi・Rajib Shaw (Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University)
- I-4-2 Community Action Planning for Disaster Risk Reduction in Delhi, India
Sunil Parashar・Yukiko Takeuchi・Rajib Shaw (Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University)
- I-4-3 Enhancing Farmers Resilience to cope with climate induced drought in northwestern Bangladesh
Umma Habiba・Rajib Shaw・Yukiko Takeuchi (Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University)
- I-4-4 Observational records' analyses for dynamic characteristics of a damaged building during the 1978 Miyagi-ken Oki and the 2011 Tohoku earthquakes
Tsoggerel Tsamba・Masato Motosaka (Graduate School of Engineering, Tohoku University)
- I-6-1 東日本大震災に関する災害報道の対応分析 – 被害状況と報道量の地域別トレンド –
近藤誠司 (京都大学大学院情報学研究科)・矢守克也 (京都大学防災研究所)・李 勇昕 (京都大学大学院情報学研究科)
- I-6-2 東日本大震災被災者支援 非医療従事者としての医療活動支援から
松下朋子 (東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻)・目黒公郎 (東京大学生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター)
- I-6-3 地域包括支援センターによる災害時の地域・施設高齢者 (災害時要援護者) への支援機能
永家忠司 (佐賀大学大学院工学系研究科)・北川慶子 (佐賀大学文化教育学部)
- I-6-4 災害発生後における地域の復興に関する構成要素間の関係性の検討
照本清峰 (和歌山大学防災研究教育センター)
- I-6-5 2011年東北地方太平洋沖地震における緊急地震速報システムの利活用の実態
– 学校教育機関における活用事例 –
源栄正人・柴山明寛 (東北大学災害制御研究センター)
- I-7-1 東日本大震災による米国とインドネシアの津波防災への影響について
杉本めぐみ (東京大学地震研究所)
- I-7-2 ヨチヨチ歩き保育園児ですら助かったのに、残念！ – 何故2万人もの津波犠牲者が？ –
伯野元彦 (東京大学名誉教授)
- I-7-3 帰宅困難経験が震災時の滞在所選好意識に及ぼした影響に関する分析
高田和幸 (東京電機大学理工学部建築・都市環境学系)・藤生 慎 (東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻博士課程)・入子直樹・大沢祐輔 (東京電機大学大学院理工学研究科修士課程)
- I-7-4 東日本大震災における津波避難に関する大規模調査 (速報)
– 今後の調査分析と知見活用に必要なこと –

- 矢守克也（京都大学防災研究所）・中神武志・宇野沢達也・上山亮佑・本田真一・笠井康祐・永井友理（（株）ウエザーニューズ）・岩田啓孝（京都大学大学院情報学研究所）・今村文彦（東北大学大学院工学研究科）
- I-7-5 ハード対策を補うソフト対策とは - 東日本大震災の被害調査から -
清野純史（京都大学大学院工学研究科）
- II-1-1 XバンドMPレーダデータのユーザの立場からの避難支援システム開発に関する研究
矢神卓也・森山 智・藤原直樹・荒木千博・米勢嘉智・端戸尚毅（（株）建設技術研究所）
- II-1-2 大川をモデルとした分岐部を有する感潮河川での数値解析
末永将也・小川芳也（摂南大学大学院）・澤井健二（摂南大学理工学部）
- II-1-3 東南海・南海地震発生時における淀川遡上津波の三次元数値解析
湯浅匡康（京都大学工学部地球工学科）・松宮弘信（新日本製鐵（株））・米山 望・戸田圭一（京都大学防災研究所）
- II-1-4 海溝軸付近のすべり等を考慮した東海・東南海・南海地震津波シミュレーション
鈴木進吾（京都大学防災研究所）・古林智宏（関西大学大学院社会安全研究科）・奥村与志弘（人と防災未来センター）・河田恵昭（関西大学大学院社会安全研究科）
- II-1-5 地震を想定した避難行動の意思決定要因に対する属性クロス分析 - 歴史的観光地域の観光客を対象とした意識調査を踏まえて
酒井宏平（立命館大学政策科学部）・崔 青林・谷口仁士（立命館大学歴史都市防災研究センター）・鐘ヶ江秀彦（立命館大学政策科学部）・伊津野和行（立命館大学理工学部都市システム工学科）・安井裕直（（株）日本ミクニヤ）
- II-2-1 東日本大震災後の沿岸リスク認知と情報収集に関するアンケート調査
- 宮城県沿岸15市町を対象にして -
佐藤翔輔・今村文彦（東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター）・古関良行（河北新聞社）
- II-2-2 東日本大震災における被災建物の悉皆調査
濱崎喜有・柴山明寛（東北大学災害制御研究センター）・石田 寛（鹿島技術研究所）・大野 晋（東北大学災害制御研究センター）・岡田成幸（北海道大学）・佐藤 健・源栄正人（東北大学災害制御研究センター）
- II-2-3 徳島県北の脇海水浴場利用者の地震・津波災害に対する意識について
日下聡平（徳島大学工学部）・武藤裕則（徳島大学大学院）・島田広昭・石垣泰輔（関西大学環境都市工学部）
- II-2-4 2011年東北地方太平洋沖地震における首都圏帰宅困難問題 東京理科大学における帰宅行動調査
千葉一樹・栗田 哲（東京理科大学工学部第一部建築学科）
- II-2-5 福島第一原子力発電所からの放射性物質の山地積雪層への堆積について
高田英治・坂井陽介（富山高等専門学校専攻科）・河島克久・伊豫部勉（新潟大学災害・復興科学研究所）・原 正憲（富山大学水素同位体研究センター）・丸山敏介・石丸民之永（新潟電気株式会社）
- II-3-1 静岡市清水区における巴川を遡上した東北地方太平洋沖地震に伴う津波
諸橋 良（静岡大学ふじのくに防災フェロー養成講座）・原田賢治（静岡大学防災総合センター）・佐野友絵（静岡大学ふじのくに防災フェロー養成講座）
- II-3-2 福岡県那珂川町で発生した豪雨時における地域住民の対応・意識に関する調査

- 橋本晴行 (九州大学大学院工学研究院)・齋藤美咲 ((株) 構造計画研究所)
- II-3-3 2011年台風12号による和歌山県那智勝浦町の洪水災害
山本晴彦 (山口大学農学部)・山本実則 (山口大学大学院農学研究科)・吉越 恆・岩谷 潔 (山口大学農学部)
- II-3-4 2010年10月奄美大島豪雨災害調査報告
竹林洋史・藤田正治・堤 大三・宮田秀介 (京都大学防災研究所)・二瓶泰雄 (東京理科大学理工学部)・赤松良久 (山口大学工学部)・神谷大介 (琉球大学工学部)
- II-3-5 Normalized Energy Density による地盤内部減衰の直接推定法
澤田純男・後藤浩之 (京都大学防災研究所)・河村雄一 (京都大学工学研究科)
- II-4-1 Hydrodynamic Characteristics of Potential Outburst Flood from Tsho Rolpa Glacial Lake in the Rolwaling Valley of Nepal
Badri Bhakta Shrestha・Hajime Nakagawa・Kenji Kawaike・Yasuyuki Baba・Hao Zhang (DPRI, Kyoto University)
- II-4-2 ビデオ画像を用いた東日本大震災津波の河川・陸上伝搬速度の評価
盧 敏・田中 仁・Mohammad Bagus Adityawan (東北大学大学院工学研究科土木工学専攻)・真野 明・有働恵子 (東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター)
- II-4-3 RIVER BANK PROTECTION AND NAVIGATIONAL CHANNEL STABILIZATION IN ALLUVIAL RIVERS USING BANDAL-LIKE STRUCTURES
Hiroshi Teraguchi・Hajime Nakagawa・Kenji Kawaike・Yasuyuki Baba・Hao Zhang (DPRI, Kyoto University)
- II-4-4 The Cost-Benefit Analysis for Improving Traffic Network Reliability after Disaster Based on Local Government Support
Shuming FANG・Hiroshi WAKABAYASHI (Meijo University)
- II-4-5 Analysis of Revised Disaster Management Plan “Standing Orders on Disaster” in Bangladesh
- What are the accomplishments and agendas of the recent revision -
Taiki Kou・Shinya Kondo・Kimiyo Meguro (Institute of Industrial Science (IS), The University of Tokyo)
- II-5-1 業務ノウハウを活用した危機対応業務支援手法の検討
小阪尚子・東田光裕・中村 亨・前田裕二 (NTT サービスインテグレーション基板研究所)・伊東昌子 (常磐大学人間科学部)
- II-5-2 広島市安佐南区土砂災害防止法適用地域における防災プロセスへの住民参加度
竹内裕希子・ショウ ラジブ (京都大学大学院地球環境学学)・馬越初美
- II-5-3 平成23年豪雪と長野県北部地震による複合災害発生状況
上石 勲・本吉弘岐・石坂雅昭 (防災科研・雪氷防災研究センター)・上村靖司 (長岡技術科学大学)
- II-5-4 東日本大震災被災企業の初動行動の実態
粕淵義郎・中野 晋 (徳島大学 環境防災研究センター)
- II-6-1 東日本大震災に伴う死者・行方不明者の特徴
牛山素行・横幕早季 (静岡大学防災総合センター)
- II-6-2 紀伊半島下に沈み込むフィリピン海スラブ周辺の地震学的構造
澁谷拓郎・福居大志 (京都大学防災研究所)・平原和朗 (京都大学理学研究科)・中尾節郎・

- 西村和浩・澤田麻沙代（京都大学防災研究所）
- II-6-3 ALOS/PALSAR で見た東日本大震災
橋本 学・福島 洋・高田陽一郎（京都大学防災研究所）
- II-6-4 広域的災害医療情報の収集と共有のためのトリアージシステム（TRACY）の開発と静岡県立総合病院における実践的訓練の実施
沼田宗純（東京大学生産技術研究所）・大原美保・目黒公郎（東京大学大学院情報学環/生産技術研究所）
- II-7-1 2011年台風12号による豪雨災害の特徴
牛山素行・高柳夕芳・横幕早季（静岡大学防災総合センター）
- II-7-2 多機関の観測データの集約・統合による平成23年7月新潟・福島豪雨の降雨分布
河島克久（新潟大学災害・復興科学研究所）・本田明治（新潟大学理学部/災害・復興科学研究所）・伊豫部勉（新潟大学災害・復興科学研究所）・後藤 研（新潟大学理学部）
- II-7-3 2010年9月8日の大雨による静岡県小山町での災害について
貝沼征嗣（静岡県危機管理部）・牛山素行・横幕早季（静岡大学防災総合センター）
- II-7-4 最近のインドネシアでの大規模森林・泥炭火災の発生状況
早坂洋史（北海道大学大学院工学研究院）・ニナ Y.（北海道大学大学院工学研究院 DC2）
- III-1-1 国際防災技術情報データベース「Disaster Reducation Hyperbase」の現状と今後について
根岸弘明（防災科学技術研究所）・亀田弘行（京都大学学際融合教育研究推進センター）・寶 馨（京都大学防災研究所）・小林健一郎（京都大学学際融合教育研究推進センター）・多々納裕一（京都大学防災研究所）
- III-1-2 2010インドネシアメラピ火山噴火にともなう土砂移動現象
権田 豊（新潟大学農学部）・宮本邦明・堀田紀文（筑波大学大学院生命環境科学研究科）・藤田正治・宮田秀介・竹林洋史（京都大学防災研究所）
- III-1-3 気象災害画像データベースの構築と利活用
山本晴彦（山口大学農学部）・山本実則（山口大学大学院農学研究科）・吉越 恆・岩谷 潔（山口大学農学部）
- III-1-4 防災研究分野の時系列動向分析の試み
近藤伸也・目黒公郎（東京大学生産技術研究所）
- III-1-5 東日本大震災の産業別ストック被害額の推計
吉村勇祐・蔣 新宇（京都大学大学院情報学研究科）・多々納裕一・梶谷義雄・西岡紗耶加（京都大学防災研究所）
- III-2-1 東日本大震災における津波火災の概要とその分析
廣井 悠（東京大学大学院工学系研究科）
- III-2-2 社会構想論としての災害復興試論
宮本 匠（日本学術振興会特別研究員 DCI・大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程）・渥美公秀（大阪大学大学院人間科学研究科）
- III-2-3 東日本大震災のスーパー広域災害としての特殊性に関する一考察
奥村与志弘（阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター）
- III-2-4 東北地方太平洋沖地震津波による岩手県・宮城県での津波高と被害の関係
門廻充侍・高橋智幸・板野智昭・関眞佐子（関西大学）
- III-2-5 アンケート調査に基づく2011年東北地方太平洋沖地震における揺れの実態調査

- 坂本拓也・源栄正人・柴山明寛（東北大学災害制御研究センター）
- Ⅲ-3-1 兵庫県南部地震による淡路島北部のため池堤体被害の多変量解析結果に対する放射パターンに基づく解釈の試み
藤井弘章（岡山県土地改良事業団体連合会）
- Ⅲ-3-2 四国沿岸における東北地方太平洋沖地震津波の到達状況
中野 晋（徳島大学環境防災研究センター）・大年邦雄（高知大学南海地震防災支援センター）・塩崎一樹（徳島大学大学院先端技術科学教育部）・梅岡秀博（徳島大学工学部総合技術センター）
- Ⅲ-3-3 東日本大震災発生時における兵庫県淡路島・和歌山県西岸自治体の対応状況
宇野宏司（神戸市立工業高等専門学校都市工学科）
- Ⅲ-3-4 東北地方太平洋沖地震による津波からの避難行動に関する分析－宮城県気仙沼市を対象として－
遠藤 聡（東京電機大学理工学部建築・都市環境学系）・藤生 慎（東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻博士課程）・高田和幸（東京電機大学理工学部建築・都市環境学系）
- Ⅲ-3-5 関東地方における夏季対流性降水の地域特性
重田祥範・白木洋平（立正大学地球環境科学部）
- Ⅲ-4-1 東日本大震災津波による海浜・河口地形の変化と回復過程
平尾隆太郎・Eko Pradjoko・田中 仁・真野 明・有働恵子（東北大学大学院工学研究科）
- Ⅲ-4-2 温暖積雪地域への適用可能なアルベドモデルの検討－山崎モデルの改良と表面融雪量モデルへの導入
伊豫部勉・河島克久（新潟大学 災害・復興科学研究所）・松元高峰（パタゴニア生態系研究センター）・外狩麻子・島村 誠（東日本旅客鉄道株式会社）
- Ⅲ-4-3 人体が受ける流体力に関する実物大模型実験および数値解析
藤木 峻・三輪真揮（京都大学大学院工学研究科）・米山 望（京都大学防災研究所）
- Ⅲ-4-4 台風による可能最大被害推定
石川裕彦（京都大学防災研究所）・奥勇一郎（京都大学防災研究所（現：大阪市環境科学研究所））・中北英一（京都大学防災研究所）・キム・スンミン（京都大学工学研究科）・吉野 純（岐阜大学工学研究科）
- Ⅲ-5-1 2011年東北地方太平洋沖地震における被災建物の振動特性の長期モニタリング
源栄正人（東北大学大学院工学研究科）・三辻和哉（山形大学地域文化教育学部）・Tsoogerel Tsamba（東北大学大学院工学研究科）
- Ⅲ-5-2 地域性を考慮した年最大日降水量の非正常頻度分析
草刈智一（元信州大学大学院）・寒川典昭（信州大学工学部）・小尻利治・浜口俊雄（京都大学防災研究所）・越 洋之（信州大学大学院）・山崎基弘（信州大学工学部）
- Ⅲ-5-3 2010/2011鳥取・鳥根の急激な新雪の増加による船の転覆について
納口恭明・石坂雅昭（独立行政法人 防災科学技術研究所）
- Ⅲ-5-4 2008年岩手宮城内陸地震時に荒砥沢ダムで発生した地すべりの移動開始とすべり面の検討
齊藤隆志・松波孝治（京都大学防災研究所）
- Ⅲ-5-5 2011年長野県北部地震の栄村被害に関連した地盤モデル構築の試み
前田寿朗（早稲田大学理工学術院）・木村友彦・加藤敦士（早稲田大学大学院）
- Ⅲ-6-1 2011年東北地方太平洋沖地震の大津波による名取市の人的被害と避難行動に関する調査
村上ひとみ（山口大学大学院理工学研究科）

- Ⅲ-6-2 ネパール国カトマンズ盆地の強震動評価－強震観測点の設置－
高井伸雄・澤田耕助・重藤迪子・岡島秀樹・宮原有史・一柳昌義・笹谷 努（北海道大学）・
Dhakal Yadab（東京工業大学）・Subesh Ghimire・Megh Raj Dhital（トリブバン大学（Tribhuvan Univ.））
- Ⅲ-6-3 荒砥沢巨大地すべり地及びその周辺地域における強震動観測
松波孝治・森井 互・齊藤隆志（京都大学防災研究所）・山元周吾（滋賀県立大大学院環境科学科）・岡本 茂・井川 猛（（株）阪神コンサルタンツ）
- Ⅲ-6-4 2011年東北地方太平洋沖地震津波による建物と海岸林の被災
松富英夫・能見卓也・山口枝里子・直江和典（秋田大学）
- Ⅲ-7-1 アメダスデータの気象庁防災情報XML データへの統合による複合災害情報表示
西尾雅弘（近畿大学産業技術研究科）・森 正寿（近畿大学産業理工学部）
- Ⅲ-7-2 住民の防災対策を支援する地震ハザードマップのあり方に関する基礎的検討
藤本一雄・能登貴仁（千葉科学大学）
- Ⅲ-7-3 地震ハザードマップのわかりやすさに関する研究
能登貴仁・藤本一雄（千葉科学大学）
- Ⅲ-7-4 TanDEM-X 画像を用いた2009年スマトラ島沖地震による斜面崩壊形状の推定
辻野和彦（福井工業高等専門学校）・河邑 眞（豊橋技術科学大学）・辻子裕二（福井工業高等専門学校）・Jafril TANJUNG（Andalas University）
- Ⅲ-7-5 地震動マップ即時推定システム（QuiQuake）を用いた震度曝露人口の推定
能島暢呂（岐阜大学）・松岡昌志（（独）産業技術総合研究所）・小山真紀（京都大学）・原 章裕（岐阜大学）

平成24年度 第2回拡大編集委員会議事録

日 時：平成24年9月19日 12時～13時半

場 所：弘前大学理工学部 大会議室

出席者：石川裕彦，牛山素行，片岡俊一，北園芳人，諏訪 浩，能島暢呂，横松宗太，米山 望（委員長），脇水健次

1. 編集状況について

委員長より，巻頭言，特集，論文処理状況について説明があった。

昨年に引き続き，論文投稿が少ない状況であることが報告された。

2. 巻頭言候補者の選出状況

委員長より，各委員からご提案いただいている巻頭言の執筆候補者について紹介があった。まだ，ご提案いただいていない委員に選出をお願いするとともに，その際，内諾を得ている必要はないことを確認した。

3. 拡大編集委員会の活性化について

・WEB 投稿システムについて

委員長より，同システムの概要案について紹介があった。システムは，現在投稿のみが利用可能になっており，今後，査読の電子化へと発展させていく予定であることが紹介された。

これに関連して，WEB 投稿システムの入力画面について，「原稿の量」の項目は必ずしも投稿時に必要がないのではとの指摘があり，削除することとした。

4. 特集について

・32-1の特集の内容について

坂本委員にご提出いただいた，特集記事案について議論を行った。原案が概ね承認された。ただし，最終的なタイトルや関連する他学会への報告との切り分け，章立てなどについて議論があり，委員長が坂本委員と協議することとした。

・32-3の特集の内容変更および担当者について

32-3の特集内容は，当初1983年日本海中部地震とすることを検討していたが，1993年の北海道南西沖地震や，今年の東日本大震災を踏まえた

特集とすることが確認された。特集担当は，編集委員長とし，委員会全体として検討することを合意した。

5. その他

・総会での議論を受けて，論文投稿者の資格について議論が行われた。その結果，当面，現状維持（著者グループの中の少なくとも一名が学会員）を確認した。

・論文賞の候補者を当委員会から推薦するように執行部から要請されており，委員長より，各委員に協力要請があった。

平成24年度日本自然災害学会第2回理事・評議員会議事録

日 時：平成24年9月18日（火）

12時30分～14時30分

場 所：弘前大学理工学部 大会議室

出席者：中川 一，渥美公秀，石川裕彦，牛山素行，川池健司，諏訪 浩，高橋和雄，多々納裕一，中野 晋，能島暢呂，宮島昌克，目黒公郎，米山 望（欠席者より委任状12通。理事・評議員会成立），横松宗太（オブザーバー）（敬称略）

1. 報告事項

(1) 会員動向報告：

平成24年9月18日現在，会員数は747名であることが報告された。ここ数年の会員数は750人前後で推移しており，微減傾向。引き続き，会費未納者への督促を励行していく。新入会については理事会の承認を受けることが会則第7条に記載されているので，次回から徹底することが確認された。

(2) 各種委員会活動報告と活動計画

1) 企画委員会報告（多々納裕一委員長）

「審査付き論文セッション」を新設するため，5名のメンバーを加えて準備会を立ち上げ，会議を開催したことが報告された。

2) 和文誌編集委員会報告（米山望委員長）

和文誌の発刊状況と今後の予定が報告され

た。

- 3) 英文誌編集委員会報告 (横松宗太委員長)
英文誌の発刊状況と今年度の発刊予定が報告された。一般論文のストックがないため、投稿の呼びかけを強化する方針が報告された。
- 4) 災害情報委員会報告 (牛山素行委員長)
委員会で運用しているツイッターについて、フォロワーが増えており、それがきっかけで入会に至った事例等が報告された。
- 5) 学会賞審査委員会 (岡田憲夫委員長, 代理・川池)
学会賞候補者について、募集・選考した結果が以下のとおり報告された。
 学術賞：菅原大助氏 (東北大学)
 功績賞：該当なし。
 国際賞：該当なし。
- 6) 東日本大震災特別委員会報告
(今村文彦委員長, 代理・高橋和雄副会長)
現地調査の実施、企画講演会の開催、英文誌での特集号の企画発刊、主要会議への貢献などの活動が報告された。

- (3) その他
特になし

2. 議事事項

- (1) 平成23年度決算案
前回理事・評議員会で承認された決算案が報告された。
総会において、沖村監事から監査の報告をしていただくことを確認した。
- (2) 平成24年度予算案
承認された。
数年間、会員名簿を作成していない。名前と専門分野を記載した名簿を用意しておき、希望者に配布する。選挙の投票用紙に「名簿が必要な人は事務局まで連絡してください」との文書を同封する。
- (3) 東日本大震災への対応
東日本大震災特別委員会の新たな活動として、調査研究の継続、関連学会との連携などが提案され、承認された。とくに、他の関連学会と連

携した議論の場の設定や、学会大会の共同開催・運営などを推奨していくことが確認された。また、委員会の活動予算として、平成25年度から50万円をあてることが承認された。

(4) 会則の変更

1) 休会

会則の改訂案が承認された。

2) シニア会員の新設等

研究室バック (※) の導入、ならびに学術講演会での発表資格を会員限定にすること、非会員の学術講演会参加料を引き上げること、非会員の自然災害科学および概要集の購入価格を引き上げることが承認された。ただし、シニア会員の導入は実際にメリットがあるのか疑問が残ることから、導入は見送ることとなった。代替案として、70歳以上の会員に対し、一定額の料金を支払って終身会員 (仮称) とすることが提案され、この案も含めて引き続きシミュレーションしてみることもとなった。

※研究室バック：既に会員となっている正会員の名前を付して学生会員 (複数名可) の入会を割り引いた年会費で受け付ける制度。ただし学会誌は送付しない。

(5) 平成25年度年次学術講演会およびオープンフォーラムの開催地

平成25年度の学術講演会およびオープンフォーラムは北海道地区の北海道大学が担当することが承認された。

(6) その他

1) 企画委員会

「審査付き論文セッション」について提案され、自然災害科学・特別号として発刊されることが了承された。

論文奨励賞の新設については、さらに具体的な案を作成することとなった。

2) 和文誌編集委員会

Web 投稿システムの運用開始が承認された。

3) 災害情報委員会

学会ホームページに、ツイッターのアカウントへのリンクを掲載することが了承された。

4) 学会賞審査委員会

学会賞について、委員会からの提案どおり承認された。

当委員会について、委員構成、委員の交代、学会賞の推薦受付、学会賞候補の選考および理事会での承認についての取り決めを記載した文書が承認された。また、この文書を理事・評議員会での申し合わせとして残すことが承認された。

(筆記者：庶務担当, 川池)

平成24年度日本自然災害学会 第1回総会議事録

日 時：平成24年9月19日（水）

10時30分～12時00分

場 所：弘前大学理工学部 2 番講義室

議 長：高橋和雄 副会長

出席者：総会出席者36名と委任状293通を加え、総会は成立した。

1. 報告事項

(1) 学術講演会及びオープンフォーラム：

2日前に開催されたオープンフォーラムと、開催中の学術講演会について参加者数等の報告があった。(片岡俊一実行委員長)

(2) 会員動向報告：

平成24年9月18日現在、会員数は747名であり、あわせて会費納入状況について報告された。

(川池庶務担当常務理事)

(3) 協賛・後援助成費採択状況

①防災研究協会

・会議開催助成（オープンフォーラム・学術講演会）：採択

②京都大学防災研究所

・一般研究集会（オープンフォーラム）：採択

(4) 平成23年度事業報告および平成24年度事業計画

1) 企画委員会（多々納裕一委員長）

審査付き論文セッションと論文奨励賞を新設すること、ならびにその概要について報告さ

れた。また、学術発表優秀賞の実施状況が報告された。

2) 和文誌編集委員会（米山望委員長）

平成23年度の発行状況と平成24年度の発行計画、ならびに Web での投稿受付が開始されることが報告された。

3) 英文誌編集委員会（横松宗太委員長）

平成23年度の発行状況と平成24年度の発行計画が報告され、投稿の呼びかけがあった。

4) 災害情報委員会（牛山素行委員長）

委員会で運用しているツイッターについて、入会に至った具体的事例を挙げて、その波及効果について報告された。

5) 学会賞審査委員会（岡田憲夫委員長、

代理・川池）

学会賞：菅原大助氏（東北大学）

功績賞：該当なし。

国際賞：該当なし。

6) 東日本大震災特別委員会（今村文彦委員長、

代理・川池）

被災地での調査、ならびに JNDS の特集号の発刊について報告された。

2. 議事事項

(1) 平成23年度決算案

承認された。(石川会計担当常務理事, 沖村監事)

(2) 平成24年度予算案

承認された。(石川会計担当常務理事)

(3) その他

1) 平成24年度東日本大震災特別委員会の活動

高橋副会長を委員長として委員会活動を継続すること、ならびに学術講演会で特別セッションを開催し、三十学会共同声明の報告や委員会活動計画の立案等がなされたことが報告された。今後の活動として、調査研究の継続、関連学会との学会大会の共同開催、学会大会での大震災特別セッションの開催などが提案され、活動予算として50万円を計上することが承認された。

2) 会則の変更

- ・休会について、会則の文面の変更が承認された。一部、原案から変更(6)・・・「復会届け」を会長に提出し、・・・。
- ・研究室バックの導入、ならびに学術講演会での発表資格を会員限定にすること、非会員の学術講演会参加料を引き上げること、非会員の自然災害科学および概要集の購入価格を引

き上げることが承認された。非会員の論文投稿資格については、引き続き審議することとなった。

3) 次年度の年次学術講演会およびオープンフォーラムの開催地

平成25年度の学術講演会およびオープンフォーラムは北海道地区の北海道大学が担当することが承認された。

付記：

(1) 平成23年度収支決算

収入	14,228,645円	(10,290,112円)
支出	8,145,120円	(8,618,000円)
次年度への繰越	6,083,525円	(1,672,112円)

1) 収入内訳

前年度繰越	1,922,112円	(1,922,112円)
会費	9,808,580円	(6,368,000円)
投稿料	945,470円	(800,000円)
学術講演会概要集収益	719,000円	(750,000円)
雑収入	533,483円	(150,000円)
防災研究協会後援助成金	300,000円	(300,000円)

計	14,228,645円	(10,290,112円)
---	-------------	---------------

2) 支出内訳

会費返金	53,000円	(48,000円)
印刷費	3,655,727円	(4,000,000円)
PDF作成・ファイル変換費	431,550円	(450,000円)
英文校閲費	207,953円	(400,000円)
通信費	243,107円	(200,000円)
旅費(役員, 編集委員)	249,920円	(200,000円)
事務用品費・備品費	114,602円	(130,000円)
人件費	2,004,282円	(1,600,000円)
フォーラム・学術講演会開催費	562,810円	(750,000円)
学術講演会概要集印刷費	80,220円	(250,000円)
学会賞(副賞, メダル刻印等)	61,004円	(150,000円)
学術講演会諸経費	149,585円	(100,000円)
会議費	61,360円	(150,000円)
ホームページ更新費	240,000円	(240,000円)
災害情報委員会	30,000円	(0円)

計	8,145,120円	(8,618,000円)
---	------------	--------------

注：() 内は当初予算額

(2) 平成24年度収支予算

収 入	14,075,525円
支 出	8,560,000円
次年度への繰越	5,515,525円
1) 収入内訳	
前年度繰越	6,083,525円
会 費	6,192,000円
投稿料	500,000円
学術講演会概要集収益	700,000円
雑収入	300,000円
防災研究協会後援助成金	300,000円
計	14,075,525円

2) 支出内訳

会費返金	0円
印刷費	4,000,000円
PDF作成・ファイル変換費	450,000円
英文校閲費	400,000円
通信費	200,000円
旅費(役員, 編集委員)	200,000円
事務用品費・備品費	130,000円
人件費	2,000,000円
フォーラム・学術講演会開催費	500,000円
学術講演会概要集印刷費	200,000円
学会賞(副賞, メダル刻印等)	70,000円
学術講演会諸経費	150,000円
会議費	50,000円
ホームページ更新費	290,000円
災害情報委員会	120,000円
計	8,560,000円